南房総市社会福祉協議会広報紙

てんだぁ 第50号

『てんだぁ』とは英語で「やさしさ」という意味です。 2020年4月

〒295-0004 千葉県南房総市千倉町瀬戸2705-6 TEL (0470) 44-3577／FAX (0470) 44-3542
ホームページアドレス http://www.shakyo-minamiboso.or.jp

CONTENTS ～主な内容～

○第14回南房総市社会福祉大会 2P・3P
○福祉作文……4P・5P
○復興サポートセンター掲示板 …… 6P
○ボランティア登録・共同募金報告 …… 7P
○善意の寄付、お知らせ …… 8P

被災された方に寄り添う ボランティアの思い

令和元年度の災害でボランティアセンターに寄せられたニーズの中で一番多かったのが、屋根のブルーシート張りの依頼でした。高所専門のボランティアの方々により屋根の応急処置がなされ、そこで被災した方の安心感に満ちた表情と笑顔に励まされ、ボランティアの方々は「また頑張れます」と口を揃えて話していました。

ローズマリー
花言葉：思い出

赤い羽根共同募金 この広報紙は、共同募金の配分金によって発行しています。

～みんなが笑顔になるために、今こそ地域のささえあい～

第14回　南房総市社会福祉大会を開催

2月8日（土）千倉保健センターで、第14回南房総市社会福祉大会が開催されました。

今大会は、地域福祉活動にご尽力された方々や、昨年の災害時に支援をして頂いた方々への表彰状や感謝状の贈呈、また市内小学生から応募のあった赤い羽根募金箱コンクール優秀作品の表彰、市内小中学生・高校生から寄せられた福祉作文コンクール代表作品の発表がありました。作文の朗読は、地域の福祉課題を的確に捉えており、高齢者が住みよい社会を作るために、地域で支えていくためには今後どうするかという話に、うなずく人の姿が目立ちました。式典後は南房総市災害ボランティアセンター・南房総市社協復興サポートセンターの活動報告がありました。

記念講演では、南房総市で災害ボランティア活動を行う支援団体を代表し、ＢＩＧＵＰ石巻専務理事兼ＢＩＧＵＰ大阪代表の松本祐樹氏を講師にお迎えし、災害ボランティア活動を始めたきっかけから、写真を見ながら実際に支援に入った状況や活動内容、そして苦労した点、またボランティア活動をする喜びなどをお話しされました。

最後には、自分達の地域は自分達で守る意識を持つ事の大切さを強調して語っておられました。

表彰された皆様おめでとうございます

南房総市社会福祉協議会長表彰（敬称略）

【地域福祉活動功労者】

関野瑞枝、若林眞由美、西原幸男、齋藤節子、本橋きみ江、三幣祥子、小柴光子、粕谷俊江、鈴木イネ子

【地域福祉活動功労団体】

トパローゼ富浦（富浦地区）、ファミリー会（千倉地区）、北三原植栽ボランティア（和田地区）

南房総市社会福祉協議会長感謝状（敬称略）

【個人】

池田幸雄、宮田好作、加藤喜美

【団体】

演歌塾丸山（丸山地区）

南房総市社会福祉協議会長感謝状（敬称略）

令和元年房総半島台風（台風15号）、令和元年東日本台風（台風19号）、10月25日大雨にかかる支援関係

【個人】

的場晟一郎、中村寿男

【団体】

ＳＬ災害ボランティアネットワーク・千葉、千葉レスキューサポートバイク、一般社団法人千葉県建設業協会、全建総連千葉土建一般労働組合かずさ支部、株式会社大栄建設、楠工建、株式会社トラスト、千葉ボラサポート、チーム中濃、ＢＩＧＵＰ大阪、ＢＯＲＤＥＲＬＥＳＳＦＩＲＥ、世界平和統一家庭連合平和ボランティア隊ＵＰｅａｃｅ、千葉県弁護士会、株式会社戸倉商店、田中建設株式会社、株式会社ファームイン、南総城山温泉里見の湯、千葉県生活協同組合連合会、ライオンズクラブ国際協力会３３３―Ｃ地区、株式会社サカイ、佐賀県有明海漁業協同組合、社会福祉法人ひらいルミナル、ＪＲ東労働組合、たかの友梨ビューティクリニック

【福祉作文コンクール代表作品】

小学生の部　加藤和花（嶺南小）

中学生・高校生の部　清水愛香（富山中）

地域福祉活動功労団体の表彰

赤い羽根募金箱コンクール優秀作品表彰（敬称略）

今年度も市内の小学生を対象に「赤い羽根募金箱コンクール」を実施し、
市内６小学校から個性にあふれ、工夫された 99 点の作品が集まりました。
入賞作品は市内公共施設に設置し、募金箱として活用されました。

小学生低学年の部

金賞

茅野正宗（嶺南小）

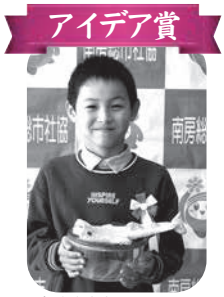
銀賞

水島優輝（嶺南小）

銅賞

武重海琉（嶺南小）

アイデア賞



相馬陸人（三芳小）

デザイン賞

渕辺羽香（白浜小）

小学生高学年の部

金賞

小川ひかり（白浜小）

銀賞

髙尾夏弥（三芳小）

銅賞

若王子結奈（富山小）

アイデア賞

岡田美沙希（嶺南小）

デザイン賞

鈴木真央（富山小）

記念講演

「思いをつなぐボランティアの活動支援」

～いろいろな被災地で活動して～

一般財団法人　BIGUP石巻専務理事兼BIGUP大阪代表

松本　祐樹　氏

「一度長期でボランティア活動をすると、もっと何かできるのではないかという気持ちにかられ、なかなかやめられないんです。」と語る松本さん。そもそも災害ボランティアを始めたきっかけは、東日本大震災が発生した当時、介護士の仕事をしていた際、地元である大阪の行政や社会福祉協議会から、被災地に救援物資を届けて欲しいとの依頼を受け、宮城県石巻市に個人ボランティアとして支援に入った事でした。被災地を支援したいという強い気持ちを持って駆けつけるボランティアの重みを感じ、その一方でボランティアセンターの運営に奔走する社協との橋渡しを自身が担うことで、地域の支援や復興にもつながっていくことを体験したとの事。８年間の活動の中で、17地域の災害対応をし、現場での作業もこなしながら、これまで13万人ものボランティアをコーディネートしてきました。

令和元年９月の房総半島台風発生後から南房総市の支援に入り、被災者世帯の半分が高齢者世帯であることを知り、これは放っておけないと長期支援を決断して、現場での作業支援の他に、地元ボランティア育成の活動として、安全に作業ができるよう講座を開いたりなど、継続してご支援頂いています。

結びに、地域の住民にとって大切な事は、「日頃から防災意識や危機管理、自分達の地域は自分達で守るという心構えでいて欲しい。」「最後まで手を貸して助けるのではなく、自分の力で立ち上がれるきっかけとなるよう手を差し伸べる姿勢が大切。」と話されました。

その言葉が災害時に限らず、すべての助け合い活動につながるキーワードであり、災害支援を通じて、福祉の原点に立ち返ることが実感できた講演となりました。

南房総市を支えたい思いが
長期支援に繋がっています

育まれる〝福祉の心〟 福祉作文コンクール代表作品

市内の児童・生徒さんが体験した「おもいやり、たすけあいの心」をテーマとした作文 367 編もの応募があり、その中から選ばれた代表作品を紹介します。

《小学生の部》

素敵な時間を創りたい

南房総市立嶺南小学校
6年　加藤（かとう）　和花（ほのか）

「まだ、お正月じゃないよ。この前も話したよ。」私は、曾祖母に伝えました。私の曾祖母は認知症です。昨年末、正月と間違えて、何度も私達にお年玉を渡しにきました。認知症になってしまうと、同じことを何度もやってしまい、周りをびっくりさせてしまうことがあります。曾祖母は気づいていないことも、私達からすると何度もやっていることがあり、「違うよ。それはこの前やったでしょ。」と言われても、何で違うのかがわからずに、説明されたことも覚えていられないのです。「かわいそう。」私は、曾祖母が何か言われるたびにこう思います。自分ではどうすることもできない曾祖母に、私は何ができるんだろうと考えるときもありました。

ある日の昼頃、「お昼だよ。ご飯食べよう。」と声をかけても返事がありませんでした。起きてテレビを見ているだけです。「どうして返事ができないんだろう。」私は不思議に思い、さっきより大きな声で呼んでみました。すると、にこにこして返事をしてくれました。「よかった。」と安心しましたが、普通の声では聞こえなくなってしまったことに、曾祖母が今までと違う人になってしまった気がして残念に似た気持ちになりました。「私の曾祖母は大丈夫。」と、心のどこかで勝手に思い込んでいた自分がいました。だからこそ、現実に起こっていく曾祖母の変化に、どうすることもできない悲しい気持ちになっていきました。

会話でも家族と話しているスピードでは聞き取れないことがあります。

「何？もう一度言ってくれない？」と聞き返された時は、どうしたらいいのか戸惑ってしまいましたが、何とか答えることができました。祖母が曾祖母にゆっくり大きな声で話しているのを見て、その時その時の曾祖母の様子に合わせていかなければいけないことに気づき始めました。普通の会話ではなく、声の大きさ、スピードなど相手に合わせて話すことで、言い返したり何度も説明をしたりすることも減っていくことにも気づきました。

私は家族が曾祖母に接する様子から、「私も同じようにしてみよう。」とゆっくり聞こえるように話しかけるようにし始めました。私が変えることで、曾祖母も楽しそうに会話をするようになりました。「私が変わればいいんだ。」と、曾祖母のことを考えながら接するようになりました。

曾祖母が立つ時、手を持ったことがありました。私はその手にびっくりしました。しわしわでごつごつ、今にも折れてしまうのではないかと心配するような手でした。それでもつかむ手は力強く、しわしわの手のどこにそんな力があったのかと驚いてしまうくらいでした。また、その手はいつもふるえています。湯飲みを持っていてもふるえています。それでも、曾祖母はこぼしたことはありません。「こんなにふるえているのに…。なぜだろう。」年をとっていても、認知症になっていてもできることはあったのです。曾祖母の手元をよく見てみると、湯飲みには取っ手がありました。そして、握ることでこぼさずに飲むことができていたのです。

曾祖母が気持ちよく私達と一緒に生活するために何が必要なのか。それは、相手に合わせる気持ちを私達が持つこと、相手が生活しやすいようにこちらが対応すること、そして、生活に必要な用具なども使いやすいように工夫された物に変えていくことだと曾祖母の生活から気づきました。毎日一緒にいるわけではないので、会う度に変わってしまう曾祖母に驚いたり悲しくなったり、私にとっては衝撃的なことがたくさんあります。それでも、曾祖母が変わることはありません。私が変わって、曾祖母に合わせながらお互い気持ちよく生活していくことが一番大切なのです。

曾祖母に残された時間がどれくらいあるのかわかりません。でも、何が一番よいのか考え、曾祖母との楽しく幸せな時間を少しでも創っていかれるようにしていきたいです。「私にできることは私がやる。」この気持ちを忘れずに、曾祖母との時間を大切にしていきたいです。

《中学生・高校生の部》

高齢者問題

南房総市立富山中学校
1年　清水（しみず）　愛香（まこ）

私の父は高齢者福祉施設で働いています。私も何度か行ったことがあります。保育園や小学校でも行きました。なので高齢者に興味があり、書いてみることにしました。

今の日本は、高齢者の人口が年々増加しています。そのため、少子高齢化が一つの社会問題ともなっています。その大きな理由は、日本の医療の発達です。自分は関係ないと思っている人も多いと思います。しかし、高齢者のことを考えるということはとても大切なことだと私は思いました。関係ないと思っている人も自分が高齢者になった時の社会はどうあるべきかしっかり考えることが必要だと思います。

私自身、小学校五年生の時に、高齢者擬似体験をしました。体験の内容は、ひもを膝にまいて、常に膝を曲げた状態にして、目にはゴーグルみたいな物をつけ視界を狭くしたまま高齢者の状態に近づけて階段をのぼったりおりたりしました。年を取るにつれ、腰が曲がってきたり、膝が曲がって常に体が曲がっていたり、また体力もだんだん落ちてきたりと体が動かしにくく不自由になると両親から聞いたことはあったけど、実際に体験してみて、本当に大変だったのを今でも覚えています。

簡単そうに見えて、膝が曲がったままの状態が思ったより辛くて、階段をのぼるだけでも一苦労でした。その時は何も考えずに体験していましたが、今考えると、とても貴重な体験でした。

高齢者にとって住みよい環境作りが今後の大きな課題だと思います。

また、困っている高齢者を見たら、声をかけたり、助けていかなくてはいけないと思いました。

高齢者の一人暮らしも問題の一つだと思います。寂しい思いをしている人も居れば、家族に迷惑をかけたくないと思っている人も居ます。家に一人で居ると、会話することもなくなり、そうすると食べ物を飲み込むえん下力もなくなってくると母から聞きました。上手くえん下出来なくなると、食べ物が違うところに入って肺炎になり寝こんでしまうこともあるそうです。そうならないためにも、人と会って会話することは、とても大切なことだと思いました。

そして、最近ニュースや新聞でよく見るのが高齢者ドライバーの事故です。記憶など物事を適切に判断する能力＝認知機能が一定基準以下に低下し、改善する可能性が少ない状態になった時に認知症の診断するというのを新聞記事で読みました。車の運転は常に集中力を必要とし、瞬時的に状況判断をしなければならないため、認知症が存在すると、安全に運転することが困難になる場合があるといいます。

交通事故は人の命に関わります。もちろん高齢者だけの問題ではないと思うが、やはり段々と機能が低下しているのなら運転するべきではないと思います。でも、実際私の住む地域でも高齢者ドライバーをよく見かけます。それは、バスや電車など他の交通機関が発達していなく自分で運転するしかないのだからです。自分が車を手放したら、体調が悪くても病院へ行くことも出来ません。毎日の生活に必要な物さえも買いに行けなくなってしまいます。運転しなくなったその日から普通の生活が出来なくなってしまうのです。高齢者ドライバーの事故をなくすためには、運転免許を返しても生活出来るように地域で支えていく必要があるのだと思います。無理をしてまで運転を続ける理由を、みんなでもっと真剣に考えていくべきだと思いました。

このように、高齢者がたくさんいる現代の中で、高齢者にとって住みやすく、安心して生活出来る環境を創っていくことが今の私達の仕事ではないのかと思います。今、身のまわりに居る高齢者のことを考えていくべきだと思いました。今居る高齢者の方達は、私達よりもはるかに社会に貢献してきた人達です。なので、私達は、感謝の気持ちを伝えながら接することができれば良いと思います。そして今、私達がすべきことは、高齢者の住みよい社会、環境を創り、高齢者との正しい接し方をすべきだと思いました。私達や、私の両親達が高齢者と共に暮らせる世の中になっているように今出来ることを、少しずつやっていこうと思いました。高齢者に関するボランティア活動に参加するなどたくさんの事が出来ると思います。私も社会に貢献できるように暮らしていこうと思います。そして、私自身が高齢者になった時、住みよい社会、環境になっていてくれるよう、次の世代の人達にも出来る事をやってほしいと思います。

福祉作文中学生･高校生の部
清水　愛香さん

南房総市社協復興サポートセンター掲示板

南房総市社協復興サポートセンターの取組状況

令和元年台風15号・19号・大雨災害

南房総市社協復興サポートセンターでは、令和元年房総半島台風（台風15号）・令和元年東日本台風（台風19号）・10月25日大雨災害で被災された方への生活再建に向けたサポートとボランティア活動の受け入れや派遣に、取り組んできました。

発災時9月から10月まで開設した災害ボランティアセンターは、主にブルーシート張りや被災ゴミなどのボランティア活動の依頼を受けて、ボランティアの派遣を行ってきました。その後、復興サポートセンターを開設し、千葉県弁護士会による「生活再建に向けた支援制度の説明会」や臨床心理士による「こころの相談」を行い、被災された方の生活再建に向けてご相談頂ける場所として取り組んでまいりました。

これからは昨年の災害を教訓とし、今後も被災された方々への支援を行っていきます。

弁護士による生活再建の支援制度説明会では多くの方々が参加されました。

南房総市社協復興サポートセンター活動実績

令和２年２月２９日現在

○ボランティア受付
- ・個人　５９８人
- ・団体　１０６団体

○ボランティアのべ活動人数　７３８人

○ボランティア活動件数　１１０件

○活動内訳
- ・高所作業　５４件
- ・一般作業　９件

○生活再建に向けた支援制度の説明会　７会場で開催

○臨床心理士による「こころの相談」　２１日間開設

災害に関するご相談

令和元年度の台風被害による困りごと相談について

令和元年度の台風による困りごとの相談は、令和2年3月1日から、お問合せ先を南房総市社会福祉協議会本所（電話44-3577）に変更し、引き続き相談を受け付けます。

※受付時間：平日　9時～17時

ボランティア活動保険加入手続きのご案内

南房総市社協では、被災地へ支援に行く際のボランティア活動保険の手続きを行っています。お近くの福祉サポートセンターで加入手続きを済ませてから、被災地へ出発しましょう。

※保証期間：加入手続き完了の翌日午前0時から、加入年度の3月31日午後12時まで

※令和元年度加入の方は、令和2年3月31日で保険は切れますのでご注意ください。

保険内容が変わります

※令和2年度からのプランと保険料（1名あたり）

基本プラン　350円

天災・地震補償プラン　500円

※詳しくは、「ふくしの保険」（hukushihoken.co.jp）ホームページまたは福祉サポートセンターにあるリーフレットをご覧ください。

ボランティア登録更新のお知らせ

4月1日から

市内で福祉活動を展開しているボランティアさんを応援します！

新年度ボランティア登録受付が始まります

南房総市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、市内で福祉活動を展開しているボランティアの相互の交流や研修などその活動の支援をするため、新年度のボランティア登録の受付をしています。（すでに登録されている個人・団体の方も、登録の更新が必要となります。）

登録には一定の要件を満たすことが原則となっていますが、登録された場合、下記の支援が受けられます。

●登録のメリット●

①社会福祉協議会が契約しているボランティア活動保険への加入

②社会福祉協議会が発行する情報誌等への活動内容の掲載や活動に関する相談助言

③ボランティア活動助成金の交付

④社会福祉協議会ボランティアセンターへ登録した各団体同士の情報交換や交流・研修

登録を希望されるボランティア（団体･個人）の方は、南房総市社会福祉協議会（本所）または、所属する各福祉サポートセンターで登録の手続きが出来ます。ぜひ、この機会に登録してみませんか？

令和元年度

赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金にご協力ありがとうございました。

●赤い羽根共同募金　6,160,966円

●歳末たすけあい募金　6,138,090円

10月からの赤い羽根共同募金、そして12月からの歳末たすけあい募金では、災害発生から間もない時期ではありましたが、区長さんをはじめ、区役員の方々や市民の皆様から、多くのあたたかい善意をお寄せいただき感謝いたします。

行政区を通じての戸別募金、各学校の児童・生徒の皆さん、市内の商店街、各種団体やボランティアの方々など多くの方に募金のご協力をいただきありがとうございました。

皆様の募金が南房総市の福祉のために役立てられました。

皆様からご協力いただきました赤い羽根募金は、千葉県共同募金会をとおして次年度南房総市の地域福祉活動へ配分されます。今年度は、福祉作文コンクールや福祉機器リサイクル事業、高齢者福祉車両貸出事業、結婚 50 周年事業などに活用させていただいた他に、昨年発生した台風等の災害で多くの被害を受けたことから、被災された方々への災害見舞金や災害ボランティア活動などにも役立てられました。

また、歳末たすけあい募金は、南房総市共同募金会配分員会において審議し、民生委員さんを通じ市内で支援を必要とする方や市内の施設にお届けしました。

たくさんのまごころ
ありがとうございます。

善意の寄付

敬称略／令和元年11月～令和2年2月

ザ･シンフル	10，000円	白浜ゴルフ部	22，668円
青木板金	30，000円	髙橋嘉弘	20，000円
匿名　5件	301，821円		

この寄付金は、本会福祉振興基金に積み立て、以後地域福祉向上のため有効に役立たせていただきます。
ありがとうございました。

紙おむつを支給します

南房総市に在住し、在宅で日常生活のほとんどに介護を必要とする方に紙おむつを給付します。

○紙おむつ給付事業

対象者	・1日中ベット上で過ごされ日常のほとんどに介護を要する要介護認定3・4・5の方
	・日常生活のほとんどに介助を要する重度心身障害の方
	・精神障害者保健福祉手帳および療育手帳をお持ちの方
品目	紙おむつ　尿取りパット　紙パンツ ※1回あたり税込5，000円以内ただし要介護3の方は税込2，500円以内

○高齢者介護用品支給事業

対象者	・65歳以上で要介護4・5の方、介護をしているご家族 ※要介護高齢者の属する世帯全員が前年度市民税非課税の世帯
品目	紙おむつ　尿取りパット　紙パンツ ※1回あたり25，000円以内

給付月および申込期限

5月給付の申込は　令和2年　4月15日㈬まで
8月給付の申込は　令和2年　7月15日㈬まで
11月給付の申込は　令和2年10月14日㈬まで
2月給付の申込は　令和3年　1月13日㈬まで

申込先／南房総市社会福祉協議会各福祉サポートセンター
問い合せ先／南房総市社会福祉協議会（本所）
または、お近くの福祉サポートセンターへ

お知らせ

～司法書士が相談に応じます～

無料法律相談

時間／午後1時～午後5時

開設日	場　所
4月 9日(木)	和田地域福祉センター
5月14日(木)	三芳農村環境改善センター
6月11日(木)	丸山公民館
7月 9日(木)	富山ふれあいコミュニティセンター
8月13日(木)	白浜コミュニティセンター

○事前予約申込：随時電話にて予約を受け付けます。
○定　　員：6人（相談はおひとりにつき40分まで）
※地域の方々のご要望により、おひとりの相談時間を10分延長し、40分となります。
○そ　の　他：**調停中や裁判中の事件の相談ならびに同一内容についての再度の相談は応じられません。弁護士による相談は他の機関を紹介します。**

予約・問い合せ先：南房総市社会福祉協議会（本所）
☎44-3577

編集後記

南房総市社会福祉協議会が発足して、14年が経過し、広報紙「てんだぁ」もおかげ様で今回50号を発行する運びとなりました。
房総半島台風･東日本台風から半年が過ぎ、今もまだ市内には、ブルーシートを張っている建物も見受けられます。その一方で、生活の再建に向けて歩みを進めている方もたくさんおいでかと思います。
当社会福祉協議会も、過日開催された社会福祉大会のテーマである「みんなが笑顔になるために、今こそ地域のささえあい」に向けて、今後も心豊かな住みよいまちづくりを目指していきます。（福）

みてみて！

facebook　twitter

― 発行・編集 ―

社会福祉法人 南房総市社会福祉協議会

◆本所　南房総市千倉町瀬戸2705-6
☎44-3577　FAX 44-3542

◆とみうら福祉サポートセンター　☎33-4565
◆とみやま福祉サポートセンター　☎57-2926
◆みよし福祉サポートセンター　☎36-2276
◆しらはま福祉サポートセンター　☎30-5122
◆ちくら福祉サポートセンター　☎44-3541
◆まるやま福祉サポートセンター　☎46-2200
◆わだ福祉サポートセンター　☎47-3390